

# 蒼葉

裾野市立深良中学校だより

平成 25 年 6 月 6 日(木)

第 9 号

発行人 校長 鈴木史良

## “一所懸命”の達成

——天候に恵まれた蒼葉祭体育の部、感動のうちに閉幕——

数日前の予報では曇りのち雨……。例年よりも10日も早い梅雨入り宣言を受け、職員室でも先生方と雨天時の対応をいろいろ話し合ってきました。でも先生方の心は6月1日(土)に実施し、多くの保護者や地域の皆様に生徒たちの一所懸命な姿を見ていただきたい、との思いでいっぱいでした。そして迎えた当日の朝、雲一つない、さわやかですがすがしい青空が広がりました。梅雨の中の晴れを意味する「五月晴れ」そのものの好天気になったのです。グラウンドもきれいに整備され、またとない最高のコンディションの中、蒼葉祭体育の部がスタートしました。

開会式のセレモニー、その中で生徒会長の高實子君をはじめとする本部役員の生徒たちの意気込みは今年もすばらしく、体育の部のスローガンである

“高めあえ友情 駆け抜ける勝利へ”を掲げて全校生徒たちを引っ張りました。紅組西島佑輝也君、白組勝又健太君もカラーリーダーとして必死になってそれぞれの組を盛り上げました。生徒たちは体育の部の成功を期して、自分の意気込みを作り、それぞれの個人種目に臨みました。

- 最後まであきらめないで頑張ります。
- 最後まで一所懸命走ります。

多くの生徒たちが上記のような意気込みをもって走りました。“一所懸命がカッコいい”を身上とする深中生にふさわしい意気込みです。

また、中には自分の思いを工夫して表現した意気込みの言葉もありました。

- 深良用水に負けないように頑張ります。(3年)
- いつ走るの？ 今でしょ！(2年)
- 豊かな走り で世界に羽ばたきます。(2年)

今はやりの表現や、学校教育目標を拝借した表現が楽しい意気込みになっています。でも、昨年度の秀逸作品『東北に届け！俺のスピリット』のレベルに達したと思われる意気込みは、残念ながら見られませんでした。(合唱の部に期待！)



生徒会長の力強い言葉



紅白カラーリーダーによる宣誓



団結の証、円陣で気合いを注入

100mや200mの徒競走では、どの生徒もゴールを目指して全力で走ることができました。1位になってもビリになっても、そのひたむきさに心うたれました。

団体種目では、これまでの練習の成果を存分に出してくれたと思います。名物の「百足競走」で見せた3年生のすばらしいスピードには驚きました。メンバー全員が息を合わせ、声を出し合って、まるで力強い機関車のような感じでした。

2年生はA、B組とも30名という長い百足になりましたが、一所懸命走り、みんなで力を合わせる大切さを学んでくれたことと思います。1年生は初めての経験ながら、名物種目に果敢に挑戦できました。「長縄跳び」では、1年生、2年生、3年生、どの学年も団結力を感じました。勝負という面では事前に優勢を誇った紅組でしたが、本番では1年、2年で白組が勝利し、意地を見せてくれました。

紅白チームの直接対抗である「大旋風」では、前半リードしていた紅組をあっという間に白組が追い越し、観客を驚かせました。

「綱引き」では紅組男子と白組女子の圧倒的なパワーに驚きました。最後に保護者の皆さんと生徒たちが戦った勝負もすばらしかったです。

ここで特筆すべきは、応援団の活躍です。今年も紅白対抗の応援合戦が繰り広げられました。紅組団長奥山風君、白組団長八木聖人君の全身から振り絞られた声は身震いするほどの迫力がありました。応援団の一挙手一投足が見るものの気持ちを引き締め、勇気を与えてくれました。応援団の思いが全校生徒たちにも響き、身をそらせて声を出す立派な応援となりました。伝統となった大根踊りも立派で、優劣をつけるのが困難なほどでした。

そして迎えた最後の競技種目、学級対抗リレー。生徒たちは毎朝早く登校し、何度もバトンリレーを練習してきました。速い子も遅い子もいる中、クラスで作戦を立て、チームワークを大切にしながら本番に臨み、どの学年もすばらしいリレーを見せてくれました。全員が心をついに、自分の力を精一杯出し切って走っている……必死で走る生徒たちの姿がはつらつとして、深良の森に輝いて見えました。総合では白組の勝利でした。しかし、紅組も精一杯悔いなく頑張ったと思います。この頑張りを9月の蒼葉祭合唱の部へつなげてくれることでしょう。

最後になりましたが、生徒たちを応援してくださった来賓、保護者の皆様に感謝申し上げます。PTA役員の皆様にもたいへんお世話になり、感謝申し上げます。



勝利を目指して団結だ！



みんなで息を合わせ、それ引け！



応援団の必死の頑張りに感動！